

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500055		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホームもたい		
所在地	岩手県奥州市前沢区生母字中道3番地2		
自己評価作成日	平成26年11月7日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kihon=true&JigvoCd=0391500055-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ○ 理念である「その人らしく輝いて、笑顔で生活出来るグループホームをめざします」の通り職員全員元気、笑顔を兼ね備えています。 ○ 介護技術、サービスの向上を目指す為に研修会等には積極的に参加し実践に繋げております。 ○ 安全管理の徹底に努めている緊急時、災害時の連絡体制。避難訓練実施)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>広々とした田園風景の中、郵便局などの集落の中心地に隣接した交通の要所に立地している。利用者の外出や散歩など交通の安全に注意を要するが、牛舎の見学、あぜ道の散策など、優れた環境となっている。また、ゆったりとしたロビーやソファが要所に配置され、くつろいだ生活環境となっている。</p> <p>グループホームもたいは、デイサービスなどの事業所が併設されており、必要に応じて看護師などの支援を得ているほか、イベントなども共同開催するなど、連携の取れた効果的なサービスが提供されている。更に、医療機関との連携を深め、投薬の調整等により、利用者の性格が明るくなり、体調が回復するとともに、排泄の自立が促進されるなど、担当者による利用者の生活改善への努力が現れている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目標を玄関に置き日々これに向かって努力している。	全職員で作り上げた理念と目標を玄関に掲げ、毎朝のミーティング時に、昨日の実践状況を振り返り、当日の業務に活かせるようにしている。また、毎日、午前中に、民謡などの歌・踊りを利用者と職員が共に楽しみ、日々の活気のある雰囲気を作り出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校が統合し交流が遠のいてしまったが、保育園児童との交流、地区で行われている祭りには参加させて頂いている。	事業所の夏祭りに、地域の住民や利用者の家族が参加し、交流がなされたほか、土・日には産直などに出向き、散歩しながら、地域の住民と話を交わすなど、地域に浸透している。	地域住民との連携を強化するため、自治会への加入を検討するほか、広報紙を作成し、回覧板などによる地域住民への情報の提供を進めることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム周辺の方々には利用者様(グループホーム)を理解して頂けていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告し、意見等を頂いている。地区の方に行事等がある日には連絡、招待をもらい参加し交流を開いた。会議の報告を家族、職員へも周知した。	運営推進会議の委員からの意見や提案を、業務の改善やイベントの開催方法などに反映させている。また、家族による支援会議などの組織はないが、利用者の1ヶ月ごとの状況を定期的に家族に知らせ、家族の意向の把握に努めている。	震災や防火対策などの的確な情報の確保と対応を習得するため、必要に応じて、臨時的に消防署員や警察駐在員の参加等を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導、運営推進委員会等で助言を指導して頂きました。	運営推進会議に市の担当課長の出席を得て、意見や提言を得ているほか、生保や介護などの手続きを家族の依頼を得て、支所に出向き行っている。その際に各種情報や事業所運営への助言、指導を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等の関係に参加報告し、全体で理解し取り組んでいる。新しく薬が増え(ふらつき、転倒等、下肢低下)家族の了解の元センサー使用し期日を決め様子観察を行った。	サービス向上委員会を設けて、内部研修会を行い、研修の内容を事務所の目のつく場所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。現在は、拘束が必要な利用者はなく、見守りで、全員思い思いの穏やかな暮らしをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内全体での会議で徹底が話し合われ、防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に出席した者は、おりますが報告に至る迄はなされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、疑問、不安等の対処に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に見えた時、月1回の手紙等で連絡している。	利用者の半数は、近隣に家族が住んでおり、家族の訪問時に意向を把握しているほか、利用者の状況を1ヶ月ごとに家族に知らせている。また、利用者の意向については、各担当を決め、日常の生活状況をきめ細かに把握するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議、時には昼休みを利用してミーティングを実践している。	毎月の職員会議時や、臨時に昼時間にミーティングを行い、意見・提案を聞くようにしている。昨年までは人員の関係で、隣接のデイサービスから応援(人員)を要していたが、今年度は、解消されている。利用者の担当職員が変わった際には、家族に連絡するようにしている。職員からの提案が出た際には、管理者は聞き入れることや、ねぎらいの言葉をかけるなどし、意欲向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休の希望日を優先し、お互いに思いやりそれが仕事に繁栄していける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が勉強会、研修会に行ける様にし、それが伝達出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修に参加し、他の施設での状況を学びそれをホームでも活動に力を入れてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、家族様に来苑して頂き利用者、職員との交流を計りホーム内の事を知って頂き納得安心して生活出来る様に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接、電話等で要望、質問に応じ支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話し合いの上でサービス提供又ケアマネよりの情報もプラスした上でやっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	以前の生活を崩さず、職員と共に共有し継続出来る様に勤めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助、面会、電話、行事の参加で大切な絆が続けられる様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所、友人の方々が面会に来てくれています。今迄通っていた美容院を希望し外出している方もおります。	理容は出張により提供しているほか、美容は希望者の意向に配慮し、馴染みの店に出向き対応している。近隣の家族や親戚の訪問や遠方の家族の事業所への宿泊を行い、以前のつながりを大切にしているほか、年賀状の作成、発送の支援や市の敬老会への出席案内、事業所での敬老会、忘年会などを開催している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、行事を通してお互い同士が助け合う声かけが多くみられるし。職員は見守り必要に応じて配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時に退所が生じた場合には、相談に乗り疑問、不安等の対処に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、行事等から意向を汲み取り支援に努めているが自由に行動し笑顔の一日で終わる様になっている。	1対1での入浴時や、個室での会話やドライブ時の会話の中から思いや意向を汲み取るようにしている。意思疎通が難しい方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。内容は職員間で確認し合い、共有に努めている。利用者全員がその日を笑顔で終わるように、職員自ら笑顔を絶やさない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一部の方は、毎日の生活パターン通りに行動しているので見守り継続。他の方々には情報を会話で得られる様にコミュニケーションを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の会議で検討すべき利用者について話し合い不在だった職員にも周知出来るように申し送りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護の中で、変化、問題点を職員会議あるいは居室担当者が家族に報告、ケアマネと家族が話し合いサービス計画を作りあげている。	特に利用者の担当職員が日常の気付きや状態の変化を観察し、毎月のカンファレンスで検討し、家族からの意見も伺いプラン作成に至っている。状態の安定している利用者は6ヵ月ごとに、変化の多い方は3ヶ月ごとに話し合われている。また、必要に応じ、臨機応変に見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別ケース記録、申し送りノート等に記入し(家族連絡当日行った時には特記事項を用いて区別)共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方にご家族様がいらっしゃる利用者様が居ますので不安を取り除き安心して頂けるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎に幼稚園慰問、夏祭り、ボランティア等の案内頂き参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族の協力を頂いている。緊急時はホーム対応で家族に報告している。	入居後も主治医の変更を勧めたりせず、本人のこれまでのかかりつけ医や、希望の病院で受診している。通院は家族対応となっているが、急変時には職員が対応し、家族には口答で伝え、ホームとして記録に残し、支援に努めている。医師への情報提供はしっかり行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内(デイサービス)に看護職員がいるので、早期対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、情報交換してケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化、終末期の支援は困難であることを伝えている。(特養等への入所を説明している。)	本人・家族には、入居時に重度化・終末期の支援は困難であることを伝え、重度化された際には特別養護老人ホームや、老人保健施設などへ移ることなど、状況により話し合いを繰り返すこととしている。急激な重度化・危篤状態時の連絡対応は、全職員共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルはあるが、常に目を通していかは検討して行かなければならない。緊急発生時は、電話の場所に大きく記入して対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施行し、1回は消防の協力を得られており指導された事は職員に周知し運営推進委員会でも報告している。	防火訓練については、併設するデイサービスとの連携により、効率的に実施した。また、非常時の職員の対応を話し合っているほか、食料、発電機などは整備している。近隣の住民の協力体制の整備と役割が、不明確となっている。	地域住民への防災への協力体制や役割を明確にし、広報紙や運営推進会議などを通じて、さらなる住民への働きかけを行い、防災体制の整備を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけは、ミーティングで話し合「今の言葉で話しても理解してもらえないので地方の言葉で話す」など共用している。	管理者の方針で、利用者・職員とも笑顔で充実した日々を送ることを念頭に、職員は各利用者の長所・短所・身体の状態を把握して、さりげない言葉かけや、身体保護などに気配りしている。利用者と職員の信頼関係が良好である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本は自己決定で支援しているが上手く表現出来ない時には選択して行動している事がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共有して行動する事があるが、各自本を読んだり、運動したりして過ごしている。職員は見守りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋さんに来て頂いて散髪。希望により普段利用している美容院に家族と共に行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等の時には、外食を楽しんで頂き季節の物を取り入れたりしている。食後は下膳、テーブル拭き、食器洗などを手伝って頂いている。(挨拶は担当者がユーモアを取り入れて話してくれる。)	調理は職員が行なっているが、食事のあいさつ、食器洗いなどを利用者には手伝っていただいているほか、行事や誕生日などには、利用者の希望を聞きメニューを立てている。更に、ドライブなど外出時には、季節を感じる食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量、食事量、体重などの把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後磨いて頂いています。磨き残しが無いか確認。時には、拒否する人がいた場合はうがいのみでもお手伝いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が解る方には、見守り(パットのズレ)尿意が解らない方には、排泄チェック表を用いてトイレ誘導。拒否があった場合などは時間を置いたり、別な職員が対応にあたる。	利用者の排泄チェック表を作成し、各自に的確に対応しているほか、態度や様子を見て、それとなく案内している。利用者の意向に沿い、紙から布オムツに替えるほか、異性の排泄支援については、利用者の羞恥心を大切に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中に野菜等を取り入れたり、水分補給、運動を促す。便秘の方は処方により投与して頂いてます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック後入浴施行。午睡中だと拒否する方がいる為そういう人には午前中入浴している。入浴中のコミュニケーションはとても楽しそうに話してくれる。	週3回、午前・午後に利用者の希望に沿って対応している。着衣等汚れた場合は、随時対応しているほか、拒否のある方には、様子を見て翌日にするなど臨機応変に対応している。糖尿病などの利用者には、水分や糖分を摂取後に行なうなど、医師の指導を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床の声かけは、ある程度の時間にしますが後は本人に任せています。就寝も個々に応じて。午睡も声かけするが、ソファで横になったり自席で過ごしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を目を通せる所に常に置いてあり、理解出来るようにしている。薬袋に名前、個数を記入している。変更時は申し送りに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、歌番組、ドライブ、料理等で個人が楽しんで頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事をたてて全員で外食している。天気の良い日は、建物周辺、家族の協力の元病院帰りには外食等をして来ている。	冬場は、外出の回数は少ないが、天気の良い日は、広大な自然に恵まれたホーム敷地内や周辺の散歩を試みている。家族の協力で、病院帰りに、外食や温泉での宿泊を楽しんでくる方もいる。また、ドライブしながら食材の購入にも出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の了解の元持参している方がおります。(出かける時には使用していたバックの中にきちんと入って居ます。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が携帯電話を持参している方がおり、時には家族に連絡しておられる。通話後は楽しく話してくれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に光が差し込み、明るく所どころにソファを置いて自由に座って横になったりしている。	広く明るい廊下の壁に、職員の顔写真や、ゲーム・レクリエーション・避難訓練・庭の作業等の楽しそうな写真が貼られてあり、家族等訪問者の安堵感等に繋がっている。ホールからの眺めは、北上川の堤をバックに広大な田園風景が望め、いつでも気分転換が可能な雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	強制せず、好きな所で自由に座ったり、会話をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた慣れた物を居室に持って来られている方もあり、椅子に座りながら寝ている姿がある。意向を大事にしています。	ホームの備えはベット・寝具一式・クローゼット・エアコン・換気扇があり、ホームでは本人・家族の意向をくみベットの向きは自由であり、馴染みの家具などを持ち込むことを勧めている。家族写真や鏡や椅子など思い思いに持ち込まれている。スッキリした作りである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内1人で歩行しても危険が無いように余計な物を置かず自由に歩行して危険をなくすように努めている。		